

校長室だより

No. 37

平成29年2月2日(木)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよし かず
加藤嘉一

九九検定やっています ー暗唱と思考力の違いー

今年もやっています、2年生の九九検定。長放課を使って先週から始めました。すでに九九自体は、2学期中に算数の授業で終わっていますから、「校長先生！九九検定、早くやろ！」と意気揚々と校長室に来てくれた子がいました。しかし、すぐにはやりません。覚えてたのものは、使わなければすぐに忘れることが多いので、「冬休みが終わってからやるよ」と宣言しました。



検定の仕方というところ・・・

- ① 各段を順に言わせるのではなく、指示した段を3～4段言わせませす。
- ② その後は、「 1×1 」から「 9×9 」までの式が書かれているカードをばらばらの順にして1枚ずつ見せます。カードが出されたら即座に答えなければいけません。

いずれも1問でも間違えたら、その日は不合格です。すぐに再チャレンジしますが、同じ放課の中では再チャレンジさせません。もう一度練習をしてるように伝えます。

担任の先生方と話していると、下がり九九（ 0×9 、 0×8 、 0×7 、…の順で唱えること）がしっかりできていた子は、合格率が高いそうです。上り九九（ 0×1 、 0×2 、 0×3 、…の順）がいくら言っても、音声だけの暗唱になっている場合が多く、一度止まってしまったり、途中から言い直しをさせたりすると、とたんに困ってしまいます。そして、一番間違いの多い段は、4の段と7の段です。「し」「しち」と似た音を使うので、音声だけで暗唱している子は、4の段の途中でつまとそこから7の段を言い出すことがあります。2年生を担当したことがある先生は、よく経験することでしょう。下がり九九を練習すると、かけ算の式を頭に思い浮かべたり、答えがよいか注意を払ったり、間違えないようにと意識がはたらくので、そこに大きな定着の差が出るのでしょうか。

今年、3年生の両学級で、算数の授業を1時間ずつやらせてもらいました。以下のような問題を通して、かけ算などの計算を活用する問題です。

算数3年下 p58 (啓林館)

たくみさんは、お楽しみ会をするので、

1本70円のジュースを6本、1こ30円のみかんを6こ買いました。

何円はらえばよいですか。

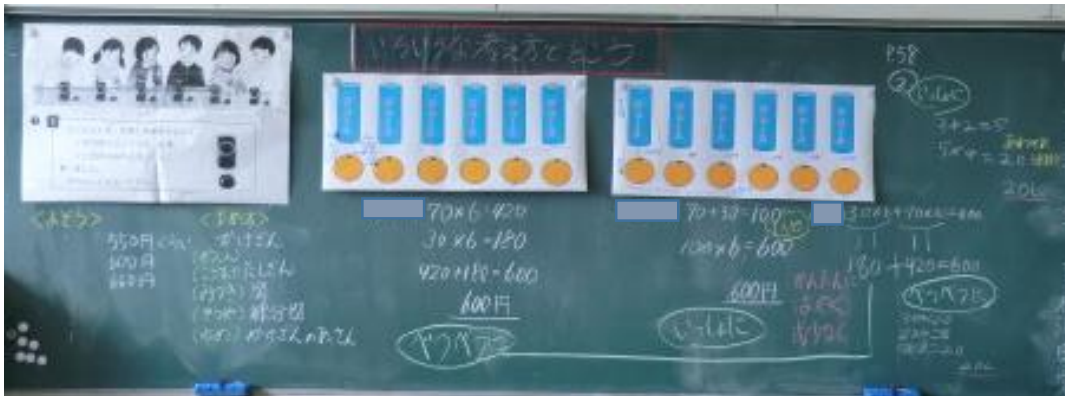
この問題でねらうところは、計算の結果を求めるだけではなく、

- ① ジュース代 (70×6) とみかん代 (30×6) を、べつべつに求める考え方
- ② ジュースとみかんを1組 ($70+30=100$) にして、まとまり ($100 \times 6=600$) を使う考え方

の2通りの考え方について学ぶことです。

これまでの学習からいうと、子供にとっては出てきた順に式にして解くという学びが圧倒的に多かった経験から①が考えやすく、はじめに取りかかる考えも①が多くなります。

この授業のとき、わたしは「いろいろな考え方どころ」を「今日のためて」としました。そして、「1つの方法で考えられた子は、2通り目の考え方をし、それもできた子は、友達に考え方の説明をできるようにしておいてね」と話し問題に取りかからせています。(もちろん、取りかかる前にどんな方法で解けそうか「見通しをもつ」場面ももっています。) 子供たちが問題に取りかかっているか全員を見てまわると、案の定、はじめから②の考えで解決しようとしていた子は29人中2人だけでした。やはり、3年生はこれが普通です。



いよいよ学級全体でどう考えるかを話し合うとき。①の考えを発言する子に続いて、Aさんが②の考えを堂々と発言しました。みんなで①と②の方法は、どんな考え方なのかを話し合った後、Aさんにもう一度②の考えについて話してもらおうと、なぜ②の考え方をしたのか理由まで自信満々で説明するのです。なんとAさんは、昨年校長室の九九検定で最後に合格した子でした。

これを見て、暗記の遅い子が学習内容の習得や活用力がないのではないことがよくわかりました。反対も然りです。発想の力や論理的な力、活用する力は、多くの教育者もいますが、暗記とは違うのです。

今年も、九九検定で合格順の差は出ます。しかし、それが今の時点での全体の学力ではなく、ごく一部の学力だと理解することです。一方で、九九の暗唱は形として唱えることができるようにしたいと思います。大切にしたいのは、暗唱だけでなく、かけ算の考え方と結びつけていく学びを今後も大切にしたいと思うのです。そのためには、かけ算の概念をつくることと、考える力をゆっくりしっかりつけていくことです。